

第38回 二中地区文化祭



58号

令和7年2/1
二中地区市民委員会
文化広報部発行
電話 824-3588
FAX 824-3553



文化祭を終えて

館長 竹本 和佳子

11月10日から17日の8日間にわたり「第38回二中地区文化祭」が盛大に開催されました。メインの17日は朝方、あいにく小雨が降っていました。その後、その後は晴天に恵まれ多くの皆様にご来場いただきました。

10日から開催しました文化芸術展では、真鍋小学校児童や第二中学校生徒による絵画、同好会や一般の方々による写真・面・絵画等の力作が展示されました。また、17日に行われしました農産物の展示即売会では、農家組合員の皆様が手塩にかけて育てた農産物をご提供いただきました。その他の模擬店でも、市民委員会の方々や各団体が煮いかやポッブコーン、綿あめ、焼いもなどを提供し、チャレンジクラブの子ども達も積極的に販売に参加して、多くのお客様で賑わい大盛況でした。

このように二中地区文化祭が盛大に開催できましたのは、運営から準備や片付け等ご協力くださった、市民委員会の皆様をはじめ、各町内会、同好会や各種団体、農産物を提供してくださった農家組合の皆様にも多大なるご協力をいただいたおかげであると深く感謝申し上げます。

同好会紹介

そば打ち同好会

谷藤 久勝

平成11年11月、二中地区公民館で「そば打ち教室」が開かれました。

受講した27名で同好会結成の機運が起こり教室の講師であった「大川先生」に指導をお願いし、平成12年2月、二中地区公民館に「そば打ち同好会」が会員数27名で発足しました。24年が経過しましたが、その間60名近い会員の出入りがあり、現在は20名で活動しております。会の目的は、そば打ち技能の向上と会員相互の親睦を図ることです。各月の第1日曜日と例会活動日は毎回一人1kgのそばを打ち「技法」と「つゆ」の作り方を錬磨しております。またボランティア活動として老人ホー



ム、デイサービスへのそばの提供、公民館行事への参加等、積極的に活動しております。そば打ちにご興味をお持ちの方は、入会や一日体験について、公民館までお問い合わせください。

アンニョン

近藤 雅子

私達の同好会「アンニョン」は、土浦市生涯学習館が令和7年3月をもって閉館することに伴い、7月から二中地区公民館でお世話になっております。

アンニョンとは挨拶の言葉です。韓国ドラマを見た事がきっかけで、言葉や文字、食べ物なども、もっと知りたくて、講座を経て同好会が発足して15年が経ちました。

実際に韓国にも行き、本場の料理を食べたり、看板の韓国語をたどたどしく読んだりした事等、懐かしい思い出です。

先生は水戸から通ってきてくださっています。私たちの息子のような年齢の方です。私たちが何度同じ事を聞いても根気よく教えてくださいたいです。現在会員は3名ですが、「字幕なしで韓国ドラマ」を目標に楽しく頑張っています。月3回土曜日11時からです。

農産物展示即売会

協力者

※順不同敬称略

◆木田余東

吉田 信茂 羽成 照昭

羽成ふさ子 酒井 義雄

鳥羽 博司 羽成 勇

松浦 将夫 松浦 春夫

殿岡 一男 鳥羽 圭一

◆木田余西

川島 一男 小野 俊雄

藤崎 久史 久松 正人

吉田 恵子 野口 光一

◆木田余中

山本 徹夫 野口 重典

久松 良次 小野 英司

山本 悦子 野口 等

◆木田余沖

藤崎 孝一 小野 一男

黒田 昌幸 小野 丹生

高原 泰 小野 俊之

◆殿里東

菊田 泰弘

◆殿里西

岡田 壽夫

◆東真鍋

間中 浄

植物画同好会

鈴木 和子

令和6年6月に、生涯学習館より二中地区公民館にお世話になることになりました。

講師は、三浦ひろ子先生で会員は6名で活動しています。

植物画とは、植物の特徴を正確に実寸で表し、絵を見た人が、すぐに



どういう植物かが理解できるように表現したものです。

鉛筆でデッサンした後、絵の具で何回も重ね塗りをして仕上げます。

絵の具は、透明水彩絵の具を使い植物の持つ透明感を大切にします。

第1、第3火曜日13時30分から15時30分まで行っていますので、ぜひ一度見学にいらしてください。

あんずの会

横山 和子

あんずの会は、かつての二中地区公民館のカラオケ講座から同好会として発足しました。コロナの時には生涯学習館で活動を行い、令和6年9月5日にこの公民館で再スタートとなりました。活動も8年になります。

現在会員は21名。皆元気に、毎回のレッスンに喜んで参加しています。後期高齢者の私も、歌うことが大好き。歌うことは脳トレにもなり、又、毎回仲間と会うことも楽しみです。レッスンは毎月、第1、第2、第3木曜日。13時30分から15時30分まで。

仲間とカラオケボックスで歌ったり、夏には皆で暑気払い、暮れには大忘年会があり、余興などもあって大いに盛り上がり楽しんでいきます。

一度教室にいらして、一緒に歌って楽しんでみませんか。お待ちしております。



◆西真鍋

羽方 文彌 岩浪 英一
塙 一男 軽部 信二
岩浪 信一



身近な防災・減災の 取り組みについて

土浦市社会福祉協議会 真鍋支部

主事 小川 明莉

土浦市社会福祉協議会真鍋支部では、二中地区市民委員会福祉部と共催で、地域福祉への理解を高めて活動の充実を図ることを目的に、年に一度、研修会を開催しています。今年度は、12月11日(水)に二中地区公民館にて実施しました。講師にNPO法人茨城県防災士会県南央エリアの方々をお招きして、近年激甚化する災害に備えて防災・減災の取り組みを考え、地域における防災体制の構築を目的にご講義をいただきました。

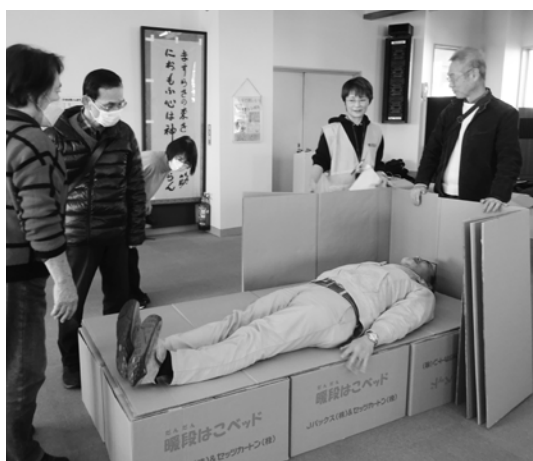
当日は、市民委員会福祉部員のほか、真鍋支部委員である地区長や民生委員、小地域活動におけるリーダーなど41名にご参加いただきました。二中地区の地域特性を踏まえ、水害による土砂災害や内水氾濫、防災倉庫の管理などについて学んだほか、実際に段ボールベッドの製作体験を行いました。

講義では、ハザードマップを用いて、今後想定される災害や災害時に取るべき避難行動、事前に防災に向

けてできることや、各ご家庭で用意しておくべき防災バッグの内容などを教えていただきました。

段ボールベッドの製作体験では、実際に寝転んだり、座ったりしてその強度や感覚なども体験しました。段ボールベッドとは、段ボールで作られた簡易ベッドのことであり、災害に備えて各避難所で導入されています。使用する段ボールは、みかん箱など強度の強い段ボールでも代用が可能だそうです。

いつ起こるか分からない災害に備えて、地域における防災・減災について考える良い機会となりました。地域の皆様も、ご家庭にある防災バッグの中身などを見直してみてください。



参加者の感想

●この地域は、洪水や土砂災害等が懸念される地域です。地域での防災対策はもとより、家庭や個人でも災害時への備えをしておくことが大切だと思いました。

●とても有意義な講話でした。この日は水害や土砂災害を中心に取り上げていただきました。土浦市の洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップで、まずは自分が住んでいる場所にどのような危険が潜んでいるのか、家族と確認したいと思います。そして発災から避難までの過程を話し合い、準備物や約束事などを決めておきたいと改めて思いました。

●実習で段ボールベッドの組み立てを行いました。これまで防災に関する研修を受けたり、講話を聞いたりする機会はありませんでしたが、段ボールベッドの組み立て実習は初めてでした。約10人のグループに分かれて組み立てましたが、初心者でも10分足らずで組み立てることができました。完成した段ボールベッドに横になったり、座ったりしてみました。災害時の利用が前提ですから、使い心地は十分満足できるものでした。このような実習を多くの方に体験してもらいたいと思いました。

参加報告

バスハイキング

主催・二中区市民委員会 スポーツ・健康部

小江戸・川越

健康ウォーキング

街のシンボル「時の鐘」



川越バスハイキングに参加して

佐藤 敬

11月28日、川越健康ウォーキングに参加した。

参加者59名はバス2台に分乗して一路川越へ。天気快晴で車窓から冠雪の富士山を望み絶好のウォーキング日和。

喜多院に到着し集合写真。喜多院は830年に創建され、何度も火災に遭いながらも徳川家康以降三代にわたり重用され現在に至る。歴史の重みを感じながら見学した。

そして川越の中心地仲町通りへ。

ここは蔵造りの街並みが残され「小江戸」と呼ばれる観光地。

いよいよ街中ウォーキングを開始。最初は集団で歩いていたが次第に分散しうなぎ屋で栄養補給する人も。街のシンボルである鐘楼「時の鐘」を眺めながら名物に舌鼓を打つ等、ウォーキングなのかショッピングなのかわからない始末。

昼食は川越市場の森で野菜料理のバイキングをたらふく腹に詰め込んで満腹。結果は3km、四千八百歩。

川越バスハイキングの感想

鈴木 由美

11月28日、バスハイキングに参加させて頂きました。

川越は一度訪れてみたかった観光地でも楽しみにしておりました。

朝から快晴で、川越ではダウンコートがいらぬ程でした。

最初に喜多院を拝観しました。徳川家光誕生の間や展示物を見学しながら、將軍家の生活に想いを馳せつつ400年以上前の文化財が現存することに感銘を受けました。



うなぎ屋で栄養補給

小江戸と呼ばれる川越は蔵造りの街並みを想像しておりましたが、新しいお店も多く、また外国人観光客も多く見かけ、食べ歩きや買い物など楽しく散策しました。

昼の場となったレストランはすべてのメニューに川越で採れた野菜が使われており、どれも美味しかったです。

最後になりますが、企画をして下さった担当役員の皆様、ありがとうございました。おかげさまでとても楽しい一日を過ごすことができました。



令和6年度
後期公民館講座



楽しく運動！簡単な筋力トレーニング&ストレッチ



日本の唱歌を歌いましょう



つまみ細工でクリスマスリース



公民館講座は、前期・後期に分かれ、さまざまな分野で開かれています。募集要項は、市の広報紙「つちうら」の4月・9月号に掲載されます。市内の各中学校区の公民館毎に募集案内が出ます。二中地区以外の講座にも応募出来ますので、興味のあるところに問い合わせみてください。

公民館講座のご案内

このほかに「心と体を整えるリラックスヨガ」講座を実施しました。



スマホ決済！PayPay 利用講座

名所・史跡さんぽ

木田余さんぽ道

鹿島神社（木田余東台）

③創建年代は定かではない。現存のご神体は、享保7年（1722）に常州新治郡木田餘村から鹿嶋大明神幣帛（へいはく）として納め祭られている。境内には、八坂神社と愛宕神社も同居する。
所在地：木田余東台二丁目13



宝積寺（木田余）

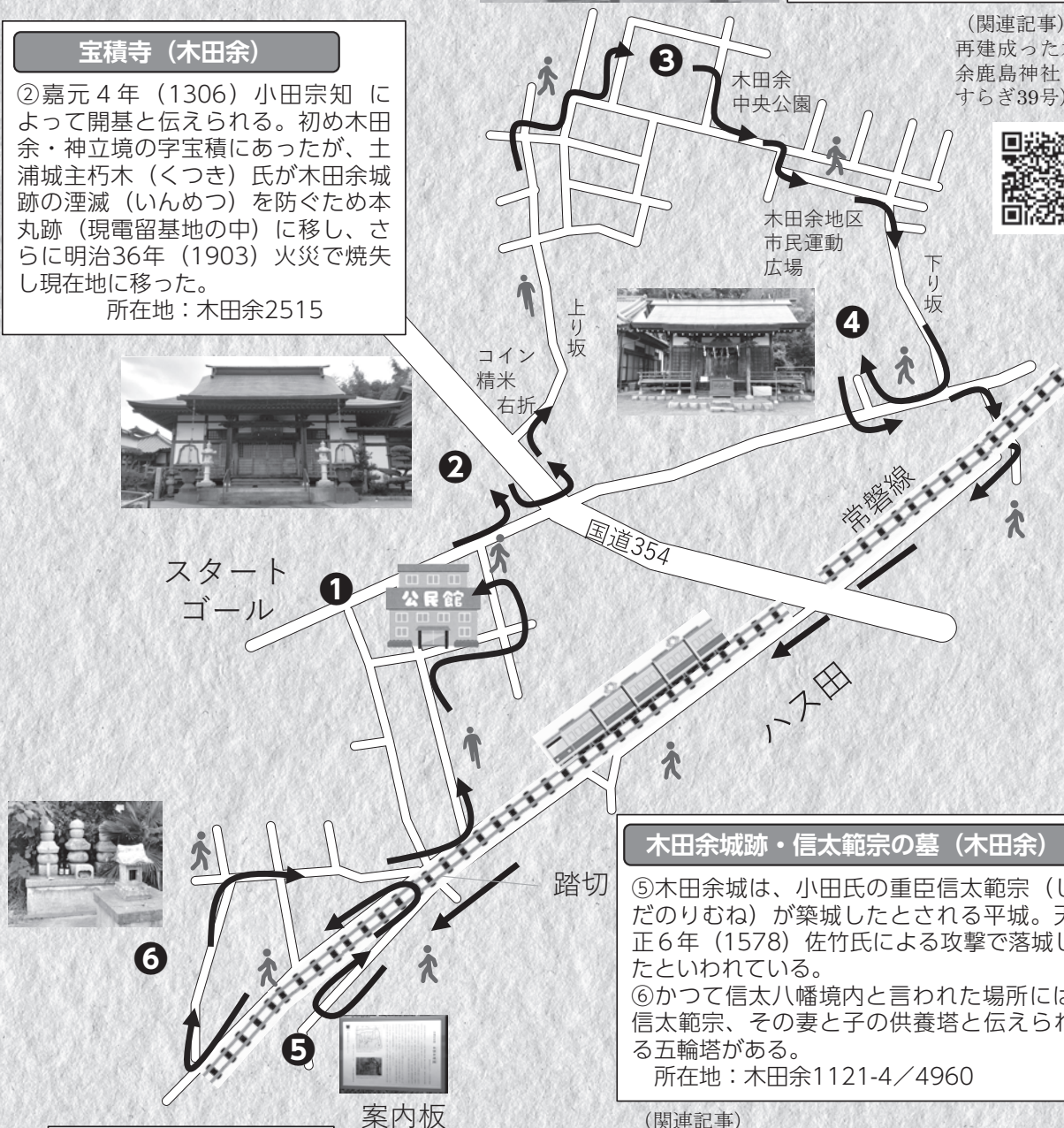
②嘉元4年（1306）小田宗知によって開基と伝えられる。初め木田余・神立境の字宝積にあったが、土浦城主朽木（くつき）氏が木田余城跡の湮滅（いんめつ）を防ぐため本丸跡（現電留基地の中）に移し、さらに明治36年（1903）火災で焼失し現在地に移った。

所在地：木田余2515



（関連記事）

再建された木田余鹿島神社（やすらぎ39号）



木田余城跡・信太範宗の墓（木田余）

⑤木田余城は、小田氏の重臣信太範宗（しだのりむね）が築城したとされる平城。天正6年（1578）佐竹氏による攻撃で落城したといわれている。

⑥かつて信太八幡境内と言われた場所には、信太範宗、その妻と子の供養塔と伝えられる五輪塔がある。

所在地：木田余1121-4/4960

（関連記事）

「まぼろしの木田余城」から出土した「和鏡」（やすらぎ46号）



4.4km：約90分

- ①スタート 二中地区公民館
- ②宝積（ほうしゃく）寺
- ③鹿島神社 八坂神社、愛宕神社
- ④青麻（あおそ）神社

- ⑤木田余城跡（案内板）
- ⑥信太範宗の墓

二中地区公民館でゴール

絵画コンクール「市の木・市の花・市の鳥」優秀賞



真鍋小学校
1年 畠永 芽衣 さん



真鍋小学校
4年 野口 結恵 さん



土浦第二中学校
8年 古川 桃愛 さん



土浦第二中学校
7年 中田 開大 さん



**今年も地区の子どもたちの
力作が並びました**

編集部コラム

正月の風物詩 「たこあげ」



正月の風物詩とも言える風揚げが昭和40年代までは、この二中地区でもよく見られたのに、今では全く見られなくなりました。

原因はまず空き地の減少や、子どもの遊びがゲームなど室内へとシフトしたことがあげられるであろう。ところで、この風揚げであるが、もともとは「いかのぼり」として呼ばれていたものである。では、なぜ「たこあげ」に変化したのか？時代は江戸時代に遡る。当時江戸では、「いかのぼり」がブームであった。とにかく三代将軍家光も夢中になつたくらいであった。ところが、風がぶつかり合ったり、高さを競ってケンカになるなど、トラブルが続出した。そこで幕府は、禁止令を出してしまった。楽しみを奪われた庶民は反発し、「これは「いか」ではなく、「たこ」である」と言つて続けた。かなりのこじつけであるが、当時の庶民の幕府に対するささやかな抵抗が見てとれてほえましい。結局禁止令は消滅し、「たこあげ」という名称で、今日に伝わつたのである。風揚げという遊びにも、深い歴史があるのである。その伝統的な遊びが消えつつあるのは寂しい限りである。



▲「やすらぎ」のバックナンバーは二中地区公民館ホームページから見るができます。